

第2回 運営会議 要項

進行:大坂 和広(理セン協力員)

1 開会の挨拶

佐渡市立理科教育センター所長

山田 裕之

2 議事

- (1) 令和7年度実施事業報告
 - ① 研修事業
 - ② 児童生徒・一般対象事業
 - ③ 研究事業
 - ④ 奉仕事業

～質疑・応答～

- (2) 令和8年度の運営について(案)
 - ① 運営の基本方針
 - ② 運営の重点
 - ③ 事業の内容
 - ④ 予算

～質疑・応答～

- (3) その他

3 諸連絡

4 閉会の挨拶

佐渡市立理科教育センター次長

渡部 厚

日 時: 令和8年2月12日(木) 午後3時30分～4時45分

会 場: 佐渡市総合体育館(ヒルトップアリーナ佐渡) 1F 会議室

令和7年度 第2回運営会議参加者

(敬称略)

佐渡市立理科教育センター所長 (佐渡総合教育センター所長)	山 田 裕 之
佐渡市立理科教育センター次長 (佐渡市立佐和田中学校長)	渡 部 厚
佐渡市小学校教育研究会 副会長 (佐渡市立小木小学校長)	本 間 智 英 (会長代理)
佐渡市小学校教育研究会 理科部長 (佐渡市立河原田小学校)	佐々木 咲 彩
佐渡市中学校教育研究会長 (佐渡市立両津中学校長)	安 藤 博 通
佐渡市中学校教育研究会 理科部長 (佐渡市立金井中学校)	村 田 健 輔
佐渡市教育委員会学校教育課長	計 良 好 昭
学識経験者	荒 貴 源 一

※ オブザーバー参加
天地人サイエンスプロジェクト実行委員 新潟日報 畑川克久

※ この会議の議事録は、佐渡市のホームページに掲載されます
ことをご了承ください。

I 令和7年度実施事業報告

1 研修事業

(1) 授業力向上研修

① 指導基礎研修会（小・中学校初心者教員対象）

年間を通じての指導のポイント、配慮が必要な単元の研修として実施。

※以下、表内の「評価」は4段階の平均。4 大変良い 3よい 2あまりよくない 1よくない。

対象学年等	期 日	内 容（指導単元）	参加者数	評価
小3理科	5月21日（水）	1年間の授業の進め方	4	4.0
小5理科	5月23日（金）	1年間の授業の進め方	2	4.0
中3理科	9月4日（木）	授業改善「化学変化と電池」	4	4.0
中2理科	9月16日（火）	授業改善「雲のでき方」	3	4.0
中3理科	11月7日（金）	授業改善「運動とエネルギー」	2	4.0
小生活科 （おもちゃ）	10月22日（水）	目標や趣旨、全体構成、指導のポイント ・おもちゃ作成の展開 ・おもちゃ例の紹介と製作	2	4.0

計 17

〔指導基礎研修アンケート感想の一部〕

- ◎ 研修を通して、実験の仕方の見直しをもつことができました。また、オクリンクプラスで活用できる資料があることを初めて知ったので、活用していきたいと思いました。本日は研修をしていただきありがとうございました。
- ◎ アーテックロガーセットⅡ型、是非使ってみてみたいと思いました。ありがとうございました。備品でもこの後頼みたいと思います。

② ワンポイント研修会（全教科・全職員対象）

短時間で授業のポイントや工夫を学べる研修として実施。

研修会名	対象学年	期 日	内 容	参加者数	評価
基礎技能研修(薬品管理等)	全学年	4月30日（水）	薬品管理等の基礎的な研修	1	4.0
天体指導のアイデア	〃	5月9日（金）	天体単元の指導についての工夫や教材の活用	2	4.0
ICT研修 ミライシード、オクリンク	〃	6月19日（木）	ミライシードについて授業での活用方法や基本操作	6	3.9
ICT研修 プログラミングプロットカー	〃	11月21日（金）	多角形の作図などのプログラミングについて、プロットカーを用いた研修	2	4.0
ICT研修 プログラミングスイッチ	〃	11月28日（金）	プログラミングスイッチを用いた研修	1	4.0
放射線学習	〃	1月22日（木）	放射線学習	2	4.0

計 14

〔ワンポイント研修アンケート感想の一部〕

- ◎ さっそく、IDを確認して授業に使用したいと思います。使い方は、ロイロノートと同じだということがわかったので、同じように使っていきたいと思います。
- ◎ 基本の操作が分かるだけで、明日の授業から使える！と思いました。難しく考えず、まずやってみることが大切ですね。普段、見逃してしまっている瞬間を動画で撮ることで、児童も教師も何度も確認することができるし、共有しやすいと思いました。

③ 研究協力員理科指導情報交流研修会

研究協力員と理セン協力員による授業研修会。理科担当教員が、授業実践・参観・協議を通して授業構成や教材等の工夫について研修する。

期日と場所	内 容	研修担当者	参加者数	評価
6月18日（水）	小4でもできる「仮説」設定！	両津小 斎藤紗織先生	5	4.0
7月8日（火） アミューズメント佐渡	小学校の物理単元 小学校9～11月の単元	畑野小 中川裕貴先生	5	4.0

10月24日（金）	小5理科「流れる水のはたらき」 小6理科「土地のつくりと変化」	新穂小 仲川真隆先生	中止	
11月17日（月） 相川中学校	中学校2分野、3学期の追い込み期(年度末) における有効活用につながるネタについて	相川中 渡部 豊先生	7	4.0
11月26日（水）	理科の授業を支えるICT活用の実践	真野中 中川友暉先生	10	3.8
12月 1日（月）	イオン、人体、モーター、理科関連のゲーム	新穂中 中村海登先生	10	4.0

計 37

〔教材情報交流研修会アンケート感想の一部〕

- ◎ 理科だけでなく、他の授業でも使え、子どもたちが生活していくうえで必要なスキルを楽しく身に付けられる方法だと思いました。ありがとうございました。
- ◎ 具体的な教材や指導法について学ぶ機会になりました。目の前の現象に驚き、疑問をもつことの楽しさを久しぶりに味わうことができました。ありがとうございました。

④ 授業・教材研究会（小・中教育研究会理科部との共催：小中教研部員対象）

小・中ともに研究授業というかたちをとらない研修を実施した。必要に応じて理科教育センター協力員ができるだけ単元構成や授業展開、教材等について助言を行った。

⑤ 研究協力員会議（研究協力員は、小学校3名・中学校3名 計6名）

期 日	内 容	参加者数
4月23日(水)	研究協力員が関わる事業についての説明と役割分担及び公開授業研修会に向けてのテーマ決め等	6
2月5日(木)	今年度事業の反省及び次年度事業の改善点検討(オンライン)	6

⑥ 理科主任研修会

期 日	内 容	参加者数
5月16日(金) アミューズメント佐渡	ア 演習「理科指導における新しい教材や操作方法について」 株式会社 ナリカ 様 イ 今年度の事業についての説明・協議	31

※ 会の終盤で以下の団体から事業説明あり。

佐渡ジオパーク係 世界遺産課 農業政策課

(2) 佐渡学研修（全教科・全職員対象）

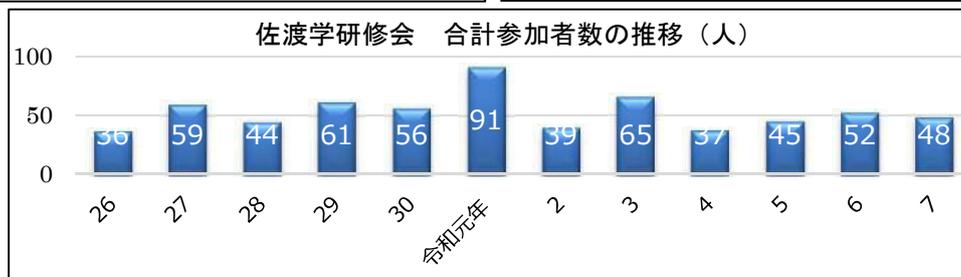
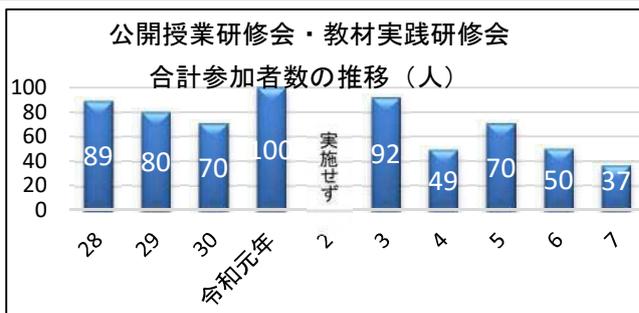
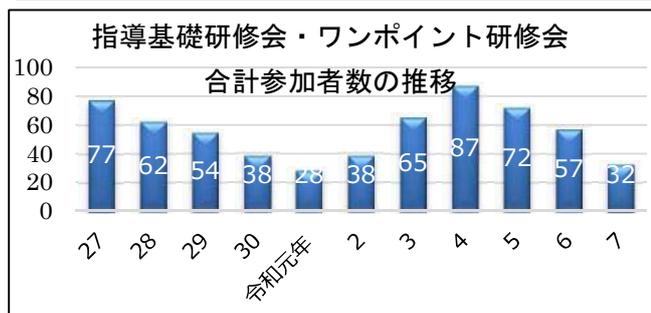
研修会名	期 日	内 容	参加者数	評価
佐渡固有生物生態研修会	5月27日(火)	サドガエルをはじめとする佐渡の固有種の生態を学ぶ。 講師：高津 邦夫 様 (新潟大学佐渡自然共生科学センター 准教授)	5	4.0
植物研修会 (里山)	6月4日(水)	行谷小校庭及び小倉地区に見られる植物やその植生を観察する。 講師：中川清太郎 様 (日本自然保護協会自然観察指導員)	14	4.0
ジオパーク研修会	7月9日(水)	両尾から水津方面に行き地質的な見どころや、歴史、生物の研修。 講師：相田 満久 様 (佐渡市ジオパーク係、佐渡自然塾長)	15	4.0
磯の生物生態研修会	7月31日(木)	磯の生物観察をとおして、佐渡の磯に棲息する生物の生態等を学ぶ。 講師：大森 紹仁 様 (新潟大学佐渡自然共生科学センター所員の先生方)	7	4.0
加茂湖再生等環境教育研修会	10月10日(金)	加茂湖の環境の特徴や変化を知り自然環境保全の必要性や苦労を学ぶ。 講師：豊田 光世 様 (新潟大学佐渡自然共生科学センター 教授)	2	4.0
トキの生態研修会	11月19日(水)	佐渡の自然環境の象徴であるトキの現在の生態や今後の研究について学ぶ。 講師：永田 尚志 様 (新潟大学佐渡自然共生科学センター 名誉教授)	5	4.0

計 48

〔佐渡学研修アンケート感想の一部〕

- ◎ 生物の形態変化についての知見を得ることができた。また、観察の方法など、実務でも生かせそうだった。理科のデータの取り方、集約の仕方が分かり、とてもためになった。環境により生物の行動が変わったり、2～3週間で姿まで変わったりということが分かり、驚いた。
- ◎ 講師先生の植物への熱い思いがひしひしと伝わってくる研修でした。行谷小学校も石碑も滝も、普段はなかなかみられないところなので、とても興味深かったです。ありがとうございました。
- ◎ 達者沖に出て、船上からの透明度測定やプランクトン採集を実際に行ったこと、顕微鏡で観察できたこと、シュノーケリングで岩場の生き物を採集し調べたり、お話を聞けたりできたことどれもとてもよかったです。研究をされている新大の先生より詳しく教えていただいたことで、海の生き物に対して興味を持つことができましたし、初めて素手でウミウシにタッチすることができました。

グラフで見る「1 研修事業」への参加者数推移



令和3・4年はICT関連の研修の需要が多く参加者も多かった。今年度も佐小研の公開授業研修がなかったので参加者数とその分減った。小学校では理科専科教員が3名に増え、理科を指導する学級担任が激減した。したがって指導基礎研修への需要も大幅に減ってきている。理科専科教員対象の研修への転換が必要となる。

2 児童生徒・一般対象事業

(1) 要請教室・調査協力

	依頼団体名	期日	内容	参加者数
1	金井小学校4年PTA	6月7日(土)	空気砲 簡単万華鏡	30
2	河原田小学校5年	6月13日(金)	スライム プラバンキーホルダー	29
3	松ヶ崎小中放課後クラブ	6月16日(月)	フライングリング	22
4	加茂小学校放課後クラブ①	6月25日(水)	簡単万華鏡	40
5	新穂小学校1年	7月4日(金)	スライム	12
6	前浜小学校	7月7日(月)	アルソミトラ フライングリング	10
7	窪田子ども会	8月9日(土)	簡単万華鏡 プラバンキーホルダー	17
8	河崎小学校3年	9月2日(火)	スライム プラバンキーホルダー	20
9	河崎小学校PTA	10月7日(火)	天体観測	40
10	両津公民館	11月29日(土)	ホバークラフト、フライングリング、浮沈子	5
11	加茂小学校放課後クラブ②	12月10日(水)	スライム	38
12	尾花子ども会	12月13日(土)	プラバンキーホルダー、浮沈子	28
13	佐和田地区公民館	1月10日(土)	簡単万華鏡 空気砲	27
14	佐渡特別支援学校(小学部)	2月6日(金)	空気砲、スライム	28
15	加茂小学校放課後クラブ③	2月18日(水)	スライム	40

計 15 回 ※ 前年度比 +1 回

(2) 科学研究サポートデー

- ① 7月25日(金)・28日(月)・29日(火)・30日(水)
 ② 8月17日(日)

延べ5日間

会場：いずれも理科教育センター
 訪問児童・生徒数 2件 2名

※ 前年度比 -1名

(3) 同定会

8月17日(日) 午後

会場：佐渡中央会館

講師：北條 睦夫 様

訪問児童・生徒数 1名(小学生)保護者 1名

※ 前年度比 -2名

(4) 佐渡市子どものための科学祭り (小・中教育研究会と共催)

9月14日(日)・15日(月祝) 会場：アミューズメント佐渡

来場者数：1,046名

※ 前年度比 +72名

準備日程概略

9月11日(木)	作品搬入①・会場設営	14:00～17:00
12日(金)	作品搬入②・作品審査 ※ 審査員 有識者3名(中川清太郎様、北條睦夫様、相田満久様) 佐小研・佐中研選出の教員12名 3団体代表(世界遺産課、農業政策課、ジオパーク係)	14:00～
14日(日)	科学祭り① 【児童生徒科学作品展】 " ② 【おもちゃコンテスト】	9:00～16:30 13:30～16:30
15日(月祝)	科学祭り " ③ 【科学体験教室】	9:00～16:00 14:00～15:30
15日(月祝)	会場復元・作品搬出	16:00～17:00
16日(火)	会場復元・作品搬出	9:00～11:30

科学祭り① 【第78回 児童生徒科学作品展】

出品数：小学生 118点

※ 前年度比 +2点

中学生 29点

※ 前年度比 -6点

科学祭り② 【おもちゃコンテスト】

出品数(小学生のみ) 17点

※ 前年度比 +3点

科学祭り③ 【科学体験教室】 3会場 5ブースで実施

※ 前年度比 -1ブース

【体験教室のブースにご協力いただいた団体様】

- ①化石レプリカづくり(佐渡市ジオパーク係) ②海藻のしおりづくり(新潟大学臨海実験所)
 ③佐渡島の金山体験(佐渡市世界遺産課) ④ビーごまづくり(理科教育センター事業協力員)
 ⑤ビリビリスピーカー、コロコアルミたまご(理科教育センター事業協力員)

※ 天地人サイエンスプロジェクトのブースが3つ出たので調整した。

「科学祭り、作品展」への出品作品数、入場者数推移



(5) 第 61 回佐渡市児童生徒科学研究発表会（小・中教育研究会と共催）

10月2日（木）中学生、3日（金）小学生 時間：14：00～16：30

会場：アミューズメント佐渡

発表作品数

【小学校】 計 28 発表（低 3 発表、中 7 発表、高 18 発表）

※ 1 前年度比 ± 0

※ 2 低学年は紙上発表のみ

【中学校】 計 10 発表（物理・化学 4 発表、生物・地学 6 発表）

※ 前年度比 - 4

審査員：小学校：指導責任者（校長） 3名

指導者（事業協力員、研究協力員、佐小研理科部） 5名

中学校：指導責任者（佐中研理科部長、副部長） 2名

指導者（研究協力員） 3名



今年度の新潟県科学研究発表のバッジデザイン
柏崎市立第一中学校 2年 村山 芹那さん

いきいきわくわく科学賞 2025（新潟日報社主催）

[全県応募数] 計 960 作品

[佐渡市応募数] 小学校・・・ 11 作品（中学年 3 作品、高学年 8 作品）

中学校・・・ 8 作品（物理・化学 3 作品、生物・地学 5 作品） 計 19 作品

[入賞者]

賞名	学校	学年	氏名	題
新潟日報社賞	新穂小学校	4	佐藤 吉紀	身の回りの菌の培養と観察
新潟日報社賞	真野小学校	4	須田 悠仁	集まれ生き物 ぼくの庭～180種近くの動物たちが大集合～
新潟日報社賞	相川中学校	1	森川 響	佐渡に生息するモリアオガエルの観察～上陸のタイミングを選択するカエルの生存戦略～
優秀賞	金井中学校	1	末武 結仁	蝉の鳴き始め・鳴き終わりの時刻調査

令和 7 年度 児童・生徒「昆虫標本展」「岩石・化石標本展」「自然科学写真展」
長岡科学博物館

岩石・化石標本展

賞名	学校	学年	氏名	題
銀賞	南佐渡中学校	1	岩間 祥吾	佐渡ジオパークの岩石標本

自然科学写真展

賞名	学校	学年	氏名	題
銀賞	真野小学校	2	須田 彬仁	ぼくとかぶと虫の362日 かんさつのきろく
銀賞	松ヶ崎中学校	3	上之山 篤人	イチモンジセセリとキアゲハ

「科学研究発表会」への参加発表数推移



3 研究事業

(1) 地域素材研究

- ① 植物調査 ————— 山の植物 ドンデン山植物調査
- ② 海の生物調査 ————— 相川達者海岸での海中生物採集
- ③ 学習アプリの開発 ————— タブレットで検索できる植物図鑑アプリ

- ④ 新潟大学自然共生科学センターの研究協力
- ⑤ ジオパーク ————— 野外教室支援教材

(2) 研修・事業の記録

- ① 科学研究のつづり（12月発刊・配布）
- ② 令和7年度 理科研修会資料集（3月発刊）DVD

4 奉仕事業

(1) 個別相談

電話、来庁、当センターからの訪問等 多数

(2) 教材・教具等の貸出件数

約 49 件 ※ 前年度比 -7 件

(3) 広報活動

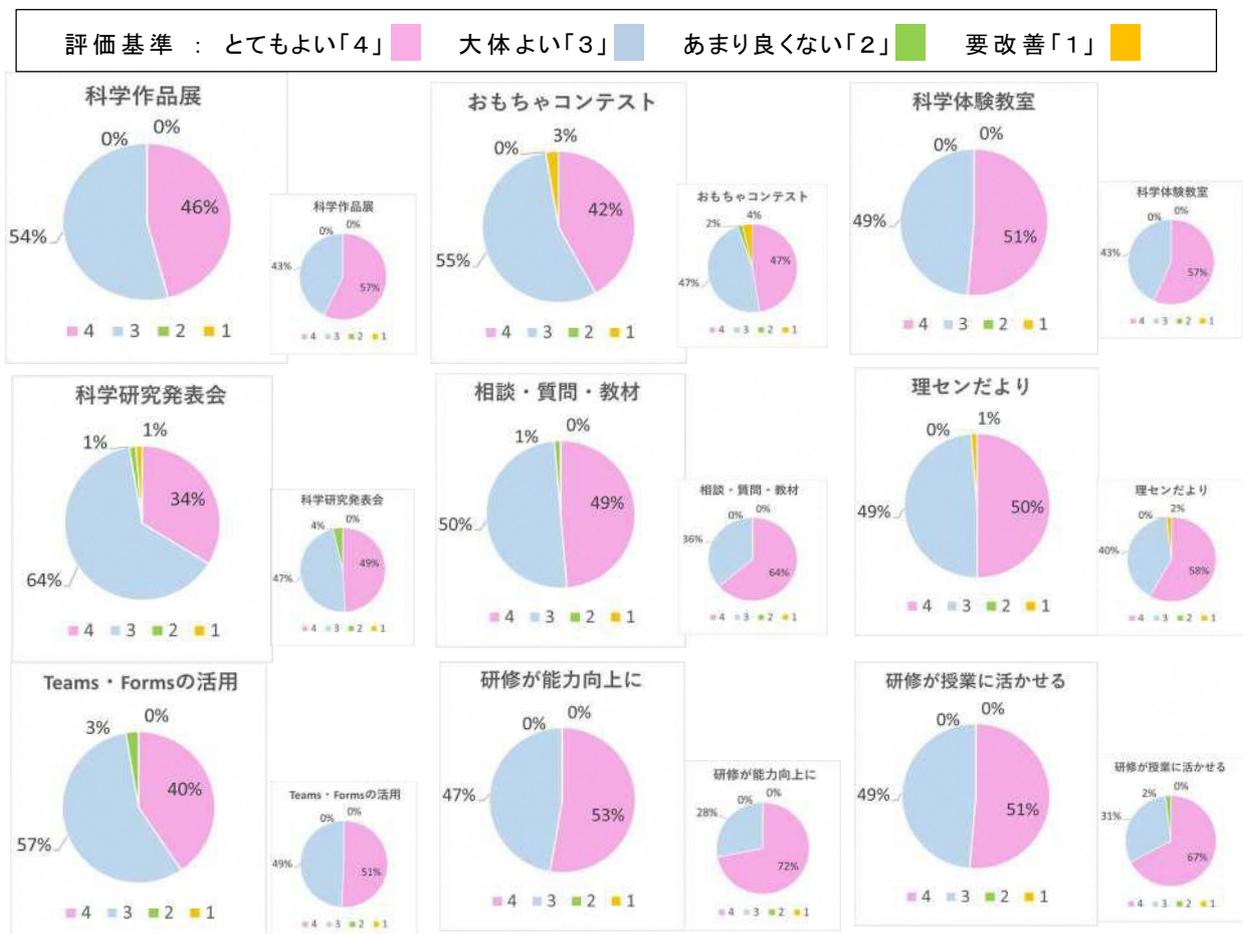
- | | |
|------------------------|---------------|
| ① 理科センターだよりの発行 | 毎月1回発行（年間12回） |
| ② Teamsでの情報・資料提供、連絡・報告 | |
| ア 研修会やイベントの案内・活動報告 | イ 教材・教具の貸し出し |
| ウ 各種大会における受賞者紹介 | エ 教材や実験の紹介 |
| オ 指導のための資料提供 | カ 理センだより など |

(4) 学校給食異物混入同定調査

2 件（1月末現在） ※ 前年度比 -13 件

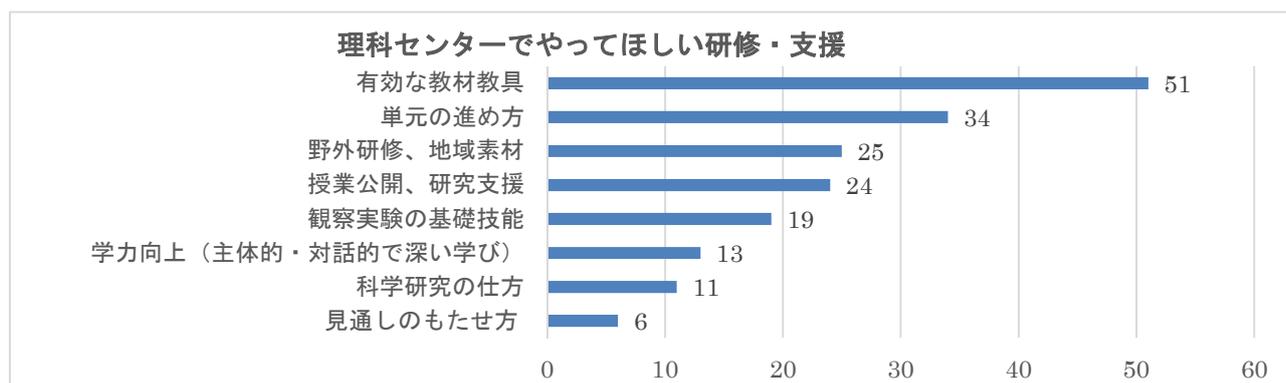
5 年度末アンケートの集計結果

小さいグラフは昨年度結果
回答者数 73 人 ※ 前年度比 +12 人



研修について

評価基準： とてもよい「4」 ■ 大体よい「3」 ■ あまり良くない「2」 ■ 要改善「1」 ■



自由記述（抜粋）

※お礼や挨拶は省略

科学作品展（科学祭）について

- ・子ども達の作品を公に評価して展示してくれることでモチベーションが上がる。
- ・科学作品発表の貴重な場 子どもの頑張りを紹介できる貴重な学びの場。
- ・校内外の子どもたちが科学に関心を持つ機会になっている。
- ・各校1名以上選出となると負担だが、今のやり方であれば良い。
- ・小中学生が一生懸命に取り組んだ質の高い作品が多くあり、見応えがあった。
- ・理科や科学に興味をもってもらいたい
- ・様々な作品を見て、来年度の意欲に繋げることができる
- ・小学校の部はよい。中学生の部では出品が一部の学校に偏っていることと、クオリティが低めなことが気になる。
- ・作品を出品してくれる児童生徒、その協力者である保護者様によって、成り立っている。それを運搬、展示、審査、コメント書きなど、担当される先生方、理科センターの先生方の裏方の力強いバックアップがあって成り立っている。
- ・他校の児童生徒の作品を見て参考になる。
- ・様々な友達の作品を見て、新たな気付きがもてたり、知識が増えたりするきっかけになる。
- ・すべての作品が1部屋で見られるよさがある。一方で、もう少し作品間の余裕があるとよいと思う。

おもちゃコンテスト

- ・科学作品発表の貴重な場である。多くの児童に発表の場を設けられる。子どもの頑張りを紹介できる。
- ・校内外の子どもたちが科学に関心を持つ機会になっていると感じた。
- ・発表形式が負担なために参加する学校が減っているのでは。
- ・児童が、使い方を実演しながら説明している姿がとてもよい。
- ・子どもたちの生き生きした顔が見られる。
- ・作品が出品しやすい。
- ・子どもが人前に出て、自分の作品を解説して紹介するという機会は、このような場面しかない。人前に出ることによって鍛えられるコミュニケーション能力の成長につながる大切な機会。
- ・おもちゃコンテストに司会として参加した。近接用のカメラがあることで、おもちゃの魅力が参観されている方によく伝わると思った。今回は急遽一人で司会をしたが、司会が2名予定されていたことはよかったと思う。負担の面もそうだが、今年のように緊急時に対応することができる。
- ・どの作品も創意工夫されている。また、一生懸命発表する姿もよい。一方で、コンテストを見ている人が、ほぼ参加者+保護者というのがさみしい。

科学体験教室（科学祭）について

- ・実感することは何よりも有意義な体験である。子どもに体験ができる
- ・校内外の子どもたちが科学に関心を持つ機会になっていると感じる。
- ・自分の子どもが参加した楽しんで理科好きが増えると考えている
- ・今年は見えていないが、体験できると理科好きが増えると考えている
- ・主催する側として来てくださるお子様連れのご家族がよるこんでくれることが何よりだ。今の時代、ものを手で作るといった機会はかなり少ないと思う。そのような場に来て、親子で一緒に活動する姿はよいものだ。
- ・サイエンスプロジェクトと連携ができた。
- ・プライベートで参加した。休日にもかかわらず、多くの学校職員や各関係団体の方が運営に参加して頭が下がった。また、皆さん親切に子どもたちに声をかけてくれ、楽しく参加することができた。すばらしいイベントだと思う。
- ・毎年、楽しい体験教室が用意されている。
- ・広く案内しているが、参加者が少ないことが残念である。
- ・先生方の負担ではないか。

科学研究発表会について

- ・もっと広めたいが、研究をする子たちが少なくなっている。また、内容が浅くなっていると感じている。（ある意味、純粋に子どもの自力の研究という結果のないものも少ないが）
- ・科学探究の貴重な機会である。
- ・研究→学会というよう大学以降の研究に倣ったプロセスがあると非常に子どもたちの将来のためになると考える。
- ・取り組んだ研究について、自信をもって堂々と発表している姿や、質問を聞いたり、自分の言葉で答えている児童の姿がとても良い。
- ・科学に興味を持たせたり、継続的に調べたりする貴重な経験になる
- ・姉（上学年）弟（下学年）で発表会に参加している児童がいたが、発表時間が重なってしまい、調整のための休憩時間があった。引率職員や保護者が参観すること考慮すると、同一校の児童が、前半・後半に分かれるようにすると、重なりが生まれず、スムーズな進行が可能になると思った。
- ・まとめや、理科担当者の時間が多く必要
- ・指導者やスタッフの人数確保が必要だが、ひとつの会場の発表人数がもう少し減るとよいと思う。
- ・子どもたちの夏休みの課題を発表できる場であるため。
- ・子どもの頑張りを紹介できる
- ・自分の研究というよりは、保護者様が夢中になって、子どもが言われたままにやっているとというふうに感じた。やっていることは面白く興味深い研究でも、いざより深い質問をすると説明できなかつたり、実際にやっているのはどのくらい？とたずねると、7～5割だったたり、やらされている感が強く伝わってくる返答だった。審査・評価するにあたり、保護者の関わりがどのくらいあったのかを明らかにして評価するか、親子で当日発表してもらわないと、本当に自力で取り組んでいる児童生徒に不平等感を感じさせると思う。

相談・質問・教材貸出等

- ・とても丁寧に対応してくださるのでありがたい。
- ・キャベツの苗と種をいただき、すくすくと成長し観察に活用できた。
- ・薬品の手配、学校に無い教材の貸し出しなど素早く準備していただいた。今年は、入院やインフルエンザなど学校を長く休む期間があり、借用物品についてかなりの期間オーバーがありご迷惑をおかけした。また、今後とも懲りずに、相談にのっていただいたり、観察・実験の協力をしていただいたりしてほしい。
- ・いつもキャベツやメダカ、ハウセンカの苗を分けていただき。大変助かっている。
- ・ICT研修もしていただき助かっている。
- ・理科の授業に悩む教員は多いと思う。教材が学校にないことが多いので助かる。

理センだより

- ・研修の様子や内容が分かりやすくまとめられており、とても参考になる。
- ・今回は届いていたのかよくわからなかった。
- ・写真を取り入れることで雰囲気伝わってくる。自分の苦手な単元などで授業を公開されている先生の取組などの詳細が分かると良いと思うので、理科センターのteamsで資料を拝見できるようにするとありがたい。
- ・参考になる。活動がよく伝わる。

Teams や Forms による情報提供・報告

- ・Teams など、ICT 機器を通して活用する授業が苦手で、理科センターとのやり取りを通して、何とか使い方を忘れずにいられることが救いである。
- ・こちらの知識が不足、必要な情報がある場所までたどり着くのに時間が掛かる。
- ・活動がよく伝わる。参考になる。
- ・可能であれば全職員にお願いしたい。

理科センターへのご意見・ご要望（あれば記入）

- ・様々な研修会が行われていてありがたい。今年度は参加が叶わなかったのも、機会があればぜひ参加したい。
- ・校内業務が多く、研修等に参加することができなかった。
- ・iPadの活用方法についてや、各校の使い方についての情報共有の場があるととても嬉しい。
- ・中教研理科部の授業研究と理セン協力員の授業研修と兼ねて進めたはずだが、本年度実施しなかった理由を教えてください。理センの研究協力員も授業公開を実施していなかった。働き方改革の一環のための判断なのか、中学校現場で理科の授業公開が一度も行われない現状を危惧している。理科の教材や指導方法の検討は、その場の生徒の学びを見取ることから始まると思うし、若い先生方にはその大切さを理解してもらう研修体系の構築を望んでいる。
- ・アンケートの複数選択ができなかった。（一部）

6 成果と課題・改善策

(1) 授業力向上研修会

主催するすべての研修会を実施することができた。参加者数は昨年度と同程度で、総じて参加者の評価は高いが、研修会の内容によって人数の増減が見られる。

研修内容については、参加者間のスキルに大きな差はあったが、個々のニーズに応えることができた。ICT活用及び実践的な研修は、ワンポイント研修として、できるだけ要望に応える内容で進めてきた。

小学校では理科専科の教員と教務主任、管理職がほとんど理科を担当しているため、公開授業研修会というかたちが実態に合わなくなってきた。そのため、理科専科教員及び理科を担当する教員同士が専門的な立場で、教材や指導方法についての情報交換、交流ができるようなかたちの研修会に変えた。参加者からも、より実践的で、多面的な研修会になったという声が多数聞かれた。今後、また授業公開し、研修するかたちの要望があれば、弾力的に変更していく。

来年度は、若手教員や久しぶりに理科を担当する教員が、より主体的に参加し、自身の指導技術の向上のためになるような研修になるように、形態や内容の改善を図り、研修方法の更なる見直しを図っていく。

(2) 佐渡学研修会

計画した6回の研修を計画通り実施することができた。

来年度も、以下の点に配慮しながら、フィールドワークや体験活動を中核に据えた研修を継続する。毎年同じような内容にならないように、少しずつ改善を図っていく。

- ① 市内の理科や総合的な学習に関わる専門家や関係機関との連携を深め、より一層研修内容の充実を図る。
- ② できる限り勤務時間内に参加できるよう、平日に実施し、あまり天候に左右されない内容にする。
- ③ 「Teams」や「理科センターだより」「ホームページ」を活用して更なる広報活動を行う。また、研修後の活動報告や資料提供をタイムリーに行う。

(3) 子どものための科学祭り(科学作品展、おもちゃコンテスト、科学体験教室)

年度末アンケートではほぼ肯定的な意見が多く、継続を希望する意見がほとんどだった。

作品数は平年並みだった。標本は減少傾向だが、毎年取り組む児童生徒が多くなり、作品自体のレベルは高い。「天地人サイエンス」との同日開催を初めて実施した。アンケート結果では、ほぼ肯定的な評価が多かった。(アンケート結果 別資料参照)

評価及び改善点としては、以下のような点が挙げられる。

- ① 佐渡学作品を科学的なものに限定して3年目になるが、作品数は特に変わらない。分野を広げてほしいという意見もあるが、科学祭りなので来年度も今年度同様できる限り科学的なものに限定をしたい。
- ② 作品の記録文について改善した。また、担当への周知を確実に行った結果、特に問題はなかった。
- ③ 休日にも関わらず、作品搬出と会場復元に協力していただく学校がほとんどだったので、大変助かっている。
- ④ 科学体験教室は、「天地人サイエンスプロジェクト」と同日開催することで、昨年度より1つ少ない5ブースで行なった。科学祭りの体験教室の参加人数は若干減少したが、天地人のブースを含めた全体としては増えた。
- ⑤ 来年度の開催日については、今年度の同時期とするが、5連休中は避ける。

- ⑥ おもちゃコンテストは、おもちゃ作品が参観者によく見えるように、手元を拡大して映す等の工夫ができた。来場見学者も多かった。司会進行担当が急遽1人になり、負担をかけてしまった。参加者が少しずつ減ってはいるが、意欲的に参加している子どもたちのために、継続していきたい。
- ⑦ 当日入場者へ配付する「出品者名簿、受賞作品一覧と審査のことば」についてはなくす方向で考えている。理由は、受賞者本人に賞状と副賞が後日渡されること、各学校には「受賞者、出品者名簿」を送付すること、昨今の個人情報管理の面からもふさわしくないこと、すべて会場内作品展を観ればすべて分かること、の4点である。その場合特に事前の周知、アナウンス等はしない。

(4) 科学研究発表会

会場をアミューズメント佐渡にし、中学校2会場、小学校3会場で実施した。発表参加者は昨年度より若干減ったが、小学校高学年は増えている。

発表要項をデータ提出にしたことで学校への負担は少なくなったが、要項作成や提出の方法の周知がやや複雑になった。今後慣れてくればよりスムーズになると思われる。当日の指導者（進行、講評）もできる限り最少人数で実施した。

事前に発表方法を確認し、プロジェクターやコード類を準備していたので、機材についての大きなトラブルはなかった。アミューズメント佐渡の会場設置型のプロジェクターについては事前にセットが必要。（音声出力も含めて）

新潟県の「いきいきわくわく科学賞2025」への出品は19作品で昨年度より7作品減った。入賞者数も昨年度より2点少なかった。学校への負担軽減という視点で今後実施体制や方法について工夫しながら実施していく。

当日、他の行事と重なり、どうしても直接会場に来られない児童生徒への配慮を今後検討していく。

(5) 科学体験教室 要請講座・調査協力

今年度15件依頼があり、全て実施した。PTAや放課後児童クラブの依頼が増えている。やはり平日の午後の依頼が多い。実施費用は理科センターの予算で執行している。

(6) 科学研究サポートデー

今年度、科学研究サポートの依頼数は減ったが、それだけ丁寧に対応できた。今後も時間と場の設定はしていく。

(7) 同定会

小学生1名だけの依頼だった。前年度より3名減。酷暑のためか、標本作成をする児童生徒が減少し、取り組む児童生徒が固定している。今後は日時や時間帯を検討する。（休日の午後のみ開催、等）

(8) その他

今年度、佐渡市から対外的な科学イベントやコンテスト（県標本展、科学の甲子園等）に参加する学校、児童生徒が増えた。学校での熱心な理科指導の表れである。ぜひ今後も奨励していきたい。

II 令和8年度の運営について(案)

1 運営の基本方針(案)

- 1 児童生徒の主体的・対話的で深い学びを目指して、興味・関心を高める観察・実験や問題解決的な指導法の提案、学習指導に適する地域素材の教材化等、教材の開発と活用法の紹介に努める。
- 2 佐渡市小・中教育研究会と連携を図り、授業実践や基礎技能研修の充実を図る。
- 3 「子どものための科学祭り」「科学研究発表会」では、教職員の負担に配慮しつつ、より一層の充実を努める。
- 4 指導に有効な資料、教材、教具の紹介及び斡旋提供のサービス活動に努める。
- 5 新潟大学をはじめ島内の専門機関との連携を密にし、佐渡の自然環境を学ぶ研修の充実を努める。
- 6 県立教育センター、各大学との連携を図り、研修会の充実を努める。
- 7 県内各理センとの連携を強化し、指導法や教材の活用方法の充実を努める。

2 運営の重点（案）

※ 学校現場における理科指導の現状や実態、課題等に配慮しつつ、研修時期や回数の見直しと内容の焦点化を図る。

1 研修事業

(1) 授業力向上研修

① 指導基礎研修会（初任者、希望者対象）

◇ 初めて理科を担当する教員でも、久しぶりに担当する教員でも、年間を通して指導内容を見直し、基礎基本を確認しながら、安心して授業を進めるための研修会。平日1時間程度で実施する。

・生活科1回、小3年～小6年 各1回、中学校3回 計8回 前年度と同

② ワンポイント研修会（全職員対象）

◇ 教員の要望や関心のある今日的な内容について、ポイントを絞って行う研修会。平日の午後1時間程度で実施する。

・ICT活用研修会
・基礎技能研修等研修会
・放射線学習研修会

計6回 前年度と同

③ 研究協力員による研修会（理科担当教員対象）

◇ 小中合計6名の理セン研究協力員がそれぞれテーマを決め、授業実践を公開したり、理科授業における効果的な指導法の実践について情報交流したりする研修会。

公開授業の場合は指導者を県センターの指導主事に基本的に依頼するが、日程が合わない場合は島内の管理職に依頼する。

計6回 前年度と同

④ 佐渡市小中教育研究会支援（小・中教育研究会理科部との共催：小中教研部員対象）

◇ 理科の授業改善を図るために理センとして教材研究、指導案検討等の支援、協力を必要に応じて行う。

前年度と同

(2) 佐渡学研修（全職員対象）

佐渡の自然に対する理解を促し、地域素材の教材化の方法や環境との関わり等を学ぶ研修会。新潟大学等の専門機関や島内の学識経験者と連携し、フィールドワークや、体験活動を研修の中核に位置付けて実施する。理科のみならず総合的な学習の時間や特別活動等でも活用できる内容とする。

前年度比 +1

2 児童生徒・一般対象事業

(1) 科学教室（要請教室）に関して

◇ PTA、地域、各種団体等の要請による科学教室を実施し、児童生徒・保護者の科学に対する関心を高める。

※ 原則として平日の午後か、土・日曜日午前中のみ受け入れとする。

(2) 子どものための科学祭り・科学作品展に関して

◇ イベント当日の活動だけでなく、児童生徒が佐渡学や作品作り・標本作り・おもちゃ作り等に意欲的に取り組めるよう、継続的な支援を行ったり、市外大会への出品案内等を行ったりする。

◇ 行政・大学・専門家・県立学校・企業等と連携し、地域ぐるみで理科教育の振興に努める。

◇ 来場者数の増加を更に図るべく、他団体との連携を深めたり、広報活動を充実したりして、科学への関心を高め、地域の理科教育振興に努める。

(3) 科学研究発表会に関して

◇ 科学研究推進のために、夏季休業中に「科学研究・科学作品サポートデー」・「同定会」を必要に応じて実施し、意欲のある児童生徒・保護者を継続して支援する。なお、小学校低学年については紙上発表での参加を促す。

3 研究事業

地域の自然の教材化を目指す研究を行う。露頭、河川の形状、植物の生態調査等を行う。

4 奉仕事業

(1) 教材・教具の紹介と貸し出し

Teams やホームページ、おたよりを活用して、指導に有効な教材や教具等を広く紹介し、積極的に貸し出しを行う。

(2) 教材作成支援等

各種研修会に参加できなかった教員に対して、要望があれば個別に対応するよう努める。

(3) 広報活動

- ◇ 「理科センターだより」を定期的に発行し、その時期に実施した各種研修会や事業についての情報提供、理科教材の紹介、今後の研修予定・内容の紹介などを行う。
- ◇ Teams 内に立ち上げたチーム「理科教育センター」に、おたよりや科学祭り等の行事や研修会の様子、研修資料等をアップロードして、佐渡市理科教育の広報に努める。佐渡市のホームページでも可能な限り広報活動していく。

(4) 学校給食異物混入同定調査

当センターで、でき得るところまでは協力していくが、あくまでも確実な判定はできない。

3 事業の具体的内容（案）

下記掲載の実施期日はあくまでも「予定」。小中校長会等、今後関係団体との調整により変更になるものがあると思われるので、新年度4月に開催する第1回の運営会議にて最終的な期日を報告する。

1 研修事業

(1) 授業力向上研修関連

事業名	担当	事業内容
指導基礎研修会 ・小3～小6各1回 小計4回 ・生活科 1回 ・中学校 3回 計8回	理 セ ン 協 力 員	・小学校理科指導基礎研修 小3（5/1） 小4（5/12） 小5（5/22） 小6（6/2） ・中学校理科授業の進め方 中1身の回りの物質 （7/3） 中2動植物の生きるしくみ （9/2） 中3生物どうしのつながり （11/6） ・生活科：おもちゃをつくろう （10/21）
ワンポイント研修会 （全職員対象） 計6回	理 セ ン 協 力 員	「理科室・理科準備室経営と薬品管理」 （4/30） 「評価に関する研修①」 （6/11） 「評価に関する研修②」 （6/18） 「ICT活用研修③」 （11/20） 「理科プログラミング研修④」 （11/27） 「放射線学習」 （1/21） ☆放射線に関する科学的な知識を身に付ける研修
研究協力員研修会 （理科担当教員対象） 計6回	理 セ ン 協 力 員 研 究 協 力 員	・研究協力員や理科担当教員が、授業を公開したり実践の情報交流をしたりして、指導法の工夫について研修する。 （6回 前年度同数予定） ※小3回 中3回 ※ 日程調整中

授業研究会 (小中教研理科部共催)	理セン 協力員	・授業実践や教材開発、作成等を通して、指導法や観察実験方法などについて検討し理科担当者の指導力向上を図る。
研究協力員会議 計2回		・理セン研究協力員(小3名・中3名)が研究協力員研修会について、その内容や分担等を検討する。 (4/23、2/4) ※ 2回目はオンラインか書面審議
理科主任研修会 計1回	専任所員 (教育指導事)	・理科センターの事業計画の説明および教材研修、講話等を行う。 (5/19) 指導者：理科教育関係者(株ウチダ様) 太陽堂

(2) 佐渡学研修(全職員対象)

研修名	期日(予定)	担当	講師(予定)
① 佐渡固有生物等生態研修会	5/26	専任所員 (教育指導主事)	講師：高津邦夫様(新大准教授) 佐渡自然共生科学センター
② ジオパーク研修会	6/16		講師：相田満久様(佐渡自然塾) フィールドワーク地：未定
③ 磯の生物生態研修会	7/30		講師：大森紹仁様(新大准教授) フィールドワーク地：新大臨海実験所周辺
④ 佐渡の農産物研修	8/3		講師：佐渡農業技術センター長
⑤ 山の植物観察会 ※前年度は「里山」の植物	8/7		講師：中川清太郎様(学識経験者) 佐渡の山の植物等
⑥ 環境教育研修会	10/6		講師：豊田光世様(新大教授) フィールドワーク地：未定
⑦ トキの生態研修会	11月中旬		講師：永田尚志様(新大名誉教授) フィールドワーク地：佐渡自然共生科学センター

2 児童生徒・一般対象事業

事業名	事業内容
科学教室(要請教室)	P T A、地域、各種団体の要請に応じて開催する科学教室。原則として平日の午後か、土曜日午前中のみ受け入れとする。
科学研究・科学作品支援(サポートデー)	希望児童・生徒を対象に、科学研究の進め方(課題選び、研究過程での問題解決など)や作品づくりの支援を行う。 7月下旬 13:30~16:30 8月22日 9:00~16:00 ※理センの予定が合えば他日でも随時受け付ける。
標本同定会	児童生徒を対象に、植物・海藻・貝・昆虫標本の名前を確認する会を行う。 8月22日(土) 13:00~16:00 ※要望減のため土曜の午後のみとする。
子どものための科学祭り ① 科学作品展 ② おもちゃコンテスト ③ 科学体験教室	地域の科学振興を目的として、佐小研・中教研との共催で行う。地域の企業等と連携する。 9月12日(土) 13日(日) アミューズメント佐渡 ※作品搬出は13日(日)と14日(月) ① 児童・生徒の標本、科学作品、佐渡学作品等を展示 ② 児童の手作りおもちゃを発表するコンテスト ③ 科学体験ブースを設置し、来場者が参加できる体験教室各研究団体等がブースを運営し、活動をアピールする。 ※天地人サイエンスプロジェクトが同日開催希望
児童生徒科学研究発表会	児童・生徒の科学研究の発表の場として行う。小学校低学年も、紙上発表として受け付ける。 ・中学校の部 10月1日(木)：アミューズメント佐渡 ・小学校の部 10月2日(金)：アミューズメント佐渡 ※小学校低学年は「紙上発表」による参加とする。

3 研究事業

事業名	事業内容
地域素材研究	野外観察に適した露頭、河川、天体観察、佐渡各地の植物等を調査・研究し、地域の自然の教材化を目指す研究を推進する。
研修・事業の記録	「科学研究のつづり」を発刊する。

4 奉仕事業

事業名	事業内容
教材・教具の貸出	Teams を活用して、チーム「理科教育センター」を充実させ、利便性のさらなる向上を図る。
教材作成支援等 個別相談	①教員対象に理科指導に関する疑問・質問等の相談に応じる。 ②一般の方からの佐渡の自然に関する質問・相談に応じる。
広報活動	①「理科センターだより」の発行 ②チームズ「理科教育センター」での研修イベントの紹介 ③佐渡市ホームページでの広報活動

4 予算（案）

令和8年度理科教育センター予算（案）

(1) 歳入の部 (単位：千円)

項目	令和8年度予算額	令和7年度予算額	対前年度増減額	備考
理科教育センター費	1,254	1,249	5	佐渡市本予算 (貸金等は別途予算)
歳入合計	1,254	1,249	5	

(2) 歳出の部 (単位：千円)▲減

項目	令和8年度予算額	令和7年度予算額	対前年度増減額	算定の基礎
報償費	115	115	0	講師等謝礼、運営委員謝礼
旅費	298	230	68	研修会講師・所員等旅費
需用費	640	699	▲59	消耗品費、燃料費、 食糧費、修繕料
役務費	61	65	▲4	通信運搬費
委託料	126	126	0	警備保障
負担金	14	14	0	地区理セン連絡協議会負担金
歳出合計	1,254	1,249	5	